

# 図書館報 みかづら

和歌山県立医科大学看護短期大学部図書館



## 目 次

和歌山県立医科大学看護短期大学部	元気の出る本-----6
図書館からの最後の挨拶-----1	本と私-----6
何を為したか-----2	蒸気機関車に乗って図書館めぐり-----7
図書館の思い出-----3	新規購読雑誌-----7
知識の泉を捜し求めて-----3	購読中止雑誌-----7
母の推薦図書-----4	平成14年度図書館利用統計-----7
人は読書では学べない。しかし-----4	平成14年度図書館活動記録-----8
本は読みたいところから-----5	編集後記-----8
初めはスタンプにひきずられ-----5	

## 和歌山県立医科大学看護短期大学部図書館からの最後の挨拶

館長 庄 司 禎 夫

皆さん、さようなら！ 永らくご愛顧をいただき、ありがとうございました。私たちの図書館は、この4月に和歌山県立医科大学図書館三葛館になります。

平成16年4月より和歌山県立医科大学に保健看護学部が開設され、和歌山県立医科大学看護短期大学部は、数年後最後の学生を送り出した時点でその役目を終えます。看護短期大学部図書館は和歌山県立医科大学附属図書館と統合され、両館はそれぞれ和歌山県立医科大学図書館三葛館、紀三井寺館となります。図書館の業務を司るコンピュータのシステムも、保健看護学部、医学部両学部にて平等なサービスができるよう、平成16年度中には高機能なものに替わる予定です。

この4大化に向けて、看護短期大学部図書館では、看護系大学図書館の平均蔵書数に肩を並べるために蔵書倍増5ヶ年計画を立て、初年度の今年度は契約雑誌を倍増し、図書も平常年度の倍、購入いたしました。これまで手薄であった洋書と看護の周辺領域の図書をしばらく重点的に補充する予定です。これらの図書を収める書庫も、開架式閉架式とも現在の倍の容量になります。

これらの事業はそれぞれ莫大な費用の掛かるものです。これらの計画を立案し、あるいはその実施に理解を示していただいた関係諸方にはお礼の申し上げようもございません。

本図書館は、質の高い看護職を育成し地域に貢献するという本学の建学の理念の一翼を、学生と教員の学習と研究を支援するという形で担っております。この役割を果たすために、図書の選定、雑誌の見直し、文献検索ガイダンス、他館との相互貸借サービス等に努めてまいりました。その利用実態はといたしますと、こ

の8年間に、延べ約22万人が入り口のゲートを歩き来し、2万3千人が6万冊を借り出しております。卒業生の利用も増加の一途をたどっています。母体が1学年80名の3年制短期大学であったことを考えますと、とりあえず、旺盛な利用状況と言えるのではないのでしょうか。いつ図書館に行っても、かならず誰かが調べ物をしています。本を探しています。読んでいます。学習室でグループ学習をしています。そのまじめで謙虚な姿にはいつも心を打たれます。成果はどうか。困っていることはありませんか。声には出せませんが、思わず応援の一つもしたくなります。

ここで苦言を一言。最近、返却される本の汚れが目立ちます。にわか雨に当たったと思われるケースがほとんどですが、天災は言い訳になりません。非常時に我が身我が物を挺して拝借物を守るのは、大人の心得です。借りたものは、借りたときの状態で返すもの。本は折るものではない。癖をつけるものではない。本を跨ぐな。足で寄越すな。投げるなんぞはもってのほか。

失礼いたしました。言わずもがなのことでした。当館では、今後も看護学を中心とする専門図書と各分野の教養図書を取り揃え、皆様のご利用をお待ちしております。名称のかわる4月以降も、旧来に増す皆様のご愛顧がいただけますようお願い申し上げます。

## 何を為したか

精神看護学 志波 充

日頃、活字に接する機会が多いのですが、読書として振り返って見ると、本当に深く読んだ本や感銘を受けた作者を思いつきません。読んだ本の数で言えば、大江健三郎でしょうか。この人の文章は考えるヒントが込められているからと思いながら読むのですが、1冊読むたびにこの人が嫌いになりながら、ついまた次の新刊を買ってしまうことを繰り返してきました。小説家は現実の世界で無力であってかまわないし、政治的に具体的な行動として表わす必要もないのだけれど、障害をもつ自身の子どものために施設をつくろうとした水上勉のほうが僕には好ましく思えてしまいます。

専門の精神をとりまく分野でも、自分が本を読んでいない程度に恥ずかしい思いをすることが多々あります。単に不勉強ということではありますが、小賢しい理屈を言うのを潔しとしない気分もどこかにあります。やっぱり大切なことは、何を言ったかではなく何を為したかであると思いながら、とにかく何かを言わなければならない時代になっているのでしょう。

ここ1年で読んだ本(たった2冊)。到底自分のかなわぬ生き方を身を持って生きた男の物語。

『壬生義士伝』(浅田次郎)、『聖の青春』(大崎善生)



## 図書館の思い出

成人看護学 鈴木 幸子

ちょっと昔(?)に学生時代を送ったので、多くの学生にとって夏は扇風機が唯一涼を取る手段であり、冷房が完備し快適空間であった図書館に席を確保するのは厳しいことだった。苦労して確保した席ではあったが、図書館という空間を満喫していたため、学習効果という観点からは胸を張ることができない。1、2年生の間は、特にそうだった。さすがに領域実習が始まると、手持ちの本では患者理解が十分にできず、資料を探しに図書館に通った。目指す文献を見つけたときの感激もさることながら、同じキャンパスにいながらめったに会うことのなかった他学部の学生と遭遇し、ひとときの語らいを持たれたことが懐かしい。私にとって図書館は、快適空間、学習資料、人との出会いと様々な面を持っていたといえる。

「人に接する仕事を選択したのだから、感性を磨いて下さい。本はその手助けになります。実際には経験できないことも本を通して感じて下さい。本は人生の師です。」この言葉は、卒業時に恩師が贈ってくれたものである。実践することはなかなか難しい。専門書も読むが、漫画、小説、雑誌などいろいろな媒体の活字とふれ、より多く、人生の師となる本に出会いたいと思う。図書館の快適空間たる所以である。



## 知識の泉を捜し求めて

衛生学 森岡 郁晴

最近雑学ブームで、断片的な知識や情報を、そのまま「へえ～」と楽しむテレビ番組が話題になっている。トリビア(trivia)の泉という番組であるが、読者の中にもご覧になった方がいるだろう。このような雑学を、所詮知識の上澄みを掬い取っただけのものと思っている人が少なくない。しかし、たいていはその裏にちゃんとした理論や理屈、裏づけがあり、ある意味では学問の面白いところをピックアップしたものと考えることができる。

このような知識はテレビ番組で入手するのも一方法であるが、最善の方法は読書である。何冊もの本をじっくり読めば、広範囲の雑学を身につけることができる。若いうちは、特に学生のうちは、しっかり読書をして、雑学であっても幅広い教養を蓄えるとよい。

ところで、保健看護職は人々の健康増進や医療、福祉を担当する。仕事柄、多くの方々と会話をし、教育や指導をする。この役割を担うには、さまざまな方の様々な背景や職業が理解できなければならず、工作上担当する分野のみならず、保健看護学全般、さらにはもっと広い分野の知識を必要とする。この道を志す者は、学生のうちにできるだけ多くの科目を受講することは勿論、できるだけ多くの書を読み、幅広い知識や経験を得ておかなければならない。保健看護職にはどのような知識や情報であっても決して無用なものではなく、すべて有用なものである。

さあ、読書を通じて、知識や情報をしっかり集めようではないか。今は断片的でつまらないと思えることであっても、いつの日かそれはつながって有用な知識と情報になる。トリビアの泉がトレビアン(très bien)の泉になるのである。

## 母の推薦図書

小児看護学 内海みよ子

本を読むのもつらくなると話す母が、本を送ってほしいと電話をしてくれました。頼み事などしたことがない人なのにどうしたわけかと心配になりました。訳を聞くと、時間を持て余し、新聞の広告欄の新村案内を見ていたら、読んでみたいと思わせるタイトルが目に入ってきたとのことでした。『豊かに老いを生きる』と『生きかた上手』という本で、90歳を越した作者の本です。

本屋に行くと、平積みされている本でした。送る前に私が読んでみましたが、大きな活字、わかりやすい言葉遣いで、高齢者の方でも目が疲れず、肩も凝らずに読めそうな本で、これだけでも読む人のことを考えた本だと感激しました。

今、私たちは70代80代の方々を目にする機会がたくさんありますし、その人たちの生活の様子を知ることできます。しかし、母の世代ではこのような高齢者の方々と交流する機会は少なかったように感じます。母が70代後半になり、自分を見つめた後に、さあ、これからという時に、先人から学ぶという経験がひょっとしたら無かったのではないかと思います。だからこのような本を読んでみたくなかったのではないか、少し行き詰まっているのではないか、この本を読むことで気持ちが楽になればいいがと思いつつ送りました。

その後も母から同じ作者の本のリクエストがあり、その度に私が先に読んでから送りました。『出会いに学び、老いに生きる』、『老いに成熟する』、他にもたくさん送りました。

いつか私も年を重ね、70代になるのでしょうか、今回読ませてもらった本から感じた「生き方」をパワフルに実践していきたいと思う良い機会となりました。

## 人は読書では学べない。しかし

成人看護学 坂本由希子

本と私、図書館と私・・・さて何を書いたらいいのだろう。最近の私といえば、時間がないというよりも気持ちの余裕がないといった状態で、読書といえるようなことはしていない。仕事関連の本や雑誌以外に最近読んだ本は何だったか、今までどんな本を読んできたっけ、と本棚を覗いてみたが、およそ知性の感じられない本ばかり雑多に並んでいる。立派な読書歴については他の先生に任せて、ここは私と本との関係について少し書かせてもらおう。

本についての最初の思い出は幼稚園のころ買ってもらった「キンダーブック」シリーズだ。一冊ごとにテーマが決まっていて、綺麗な色の絵や写真が載っていた。何度も繰り返し見たのを覚えている。小学校の頃は時間割の中に「読書の時間」というのがあって、その時間は図書館で自分の好きな本を読む、というものだった。私はこの時間が大好きで、興味のある本を毎時間夢中で読んでいた。授業終了のチャイムが鳴ると、はっと本の世界から現実に戻され、異次元からワープしてきたような不思議な気分になったものである。中学生の頃からは次第に図書館とは縁遠くなり、興味のある本しか読もうとせず、読書は好きだったけど自分の生活の中でそれほど重要な位置を占めていなかったような気がする。

そして今、本を読む時間は、現実から開放される憧れのようなものである。細切れの時間の中でやっと読み終えた小説、子どもと一緒にページをめくる絵本、早く読まなければならないのに途中で止まったままになっている仕事関連の本・・・意識はしていなかったけどやっぱり本はいつも私のそばにあったのだなあと思う。誰の言葉だったか忘れたけれど「人は読書では学べない。経験することでしか学べない動物だ」と本で読んだ。学べなくても別にいい、本は楽しむもの。やっぱりこれからも本がそばにある生活をしたい。

## 本は読みたいところから

基礎看護学 井上 潤

私は、本は読みたいところから読む。読書量は決して多くはない。家の本棚には、詩や短歌、句集、図録が並ぶ。その面々は、立原道造、草野心平、寺山修司、与謝野晶子、尾崎翠、鈴木真砂女、森博嗣、西村伊作、等々。知る人ぞ知るマニアックな人ばかり。ご存知の方には、私の性格が想像できることでしょう。変わり者好きの私は、その人の人生、思想、その世界に大きく心魅かれる。

そして、無人島に持っていくなら、俵万智編『あなたと詠む恋の歌百首』。時代を超え、さまざまな歌人の恋にまつわる短歌を、歌人の人生、歌にまつわるエピソード、連歌を載せて万智流に紹介している。まず冒頭の歌を詠み、エピソードを読んで再度楽しみ、連歌を詠んで三度楽しむ。そして読書の醍醐味は、その時の自分の状況によってまた違った味が楽しめること。

開いたところから読むという気楽さと、十人十色の人生に思いを馳せ、どんな状況でそのことばが生み出されたのかを考える。そんなことが好きな私は、ある占いで紫式部タイプ。大作に多彩な人物を登場させたのは、彼女の鋭い観察力。自分なりのこだわりがあり、わかってくれる人にわかってもらえればよし。要するに、マイペースなのだ。

## 初めはスタンプにひきずられ

母性看護学 辻久美子

今回、この原稿の依頼を頂いたとき、困惑したというのが正直な私の感想でした。実は、このところゆったりした時間があまり取れず、読みたいと思っている本も途中までで止まっていて、読破できていないからです。どうしようと思いながら、内容を考えていたのですが、私が本を読むようになったきっかけについて書こうと思いました。

私は小学生の時に図書館と出会い、貸し出しスタンプがたくさんたまっていくのが楽しくて、学校帰りに町立図書館に寄っては本を借り、持ち帰っていました。はじめは絵本などが多く、字が少ないからあっという間に読み終わり、次の日には別の本を借りるといった感じでした。しかし小学校高学年くらいから、母親の影響で推理小説を読むようになりました。確か、初めて読んだのは赤川次郎の三毛猫ホームズシリーズだったと記憶しています。その後、探偵物や今ではサスペンスドラマなどでも使われるような電車物など、図書館にあるありとあらゆる推理小説を読みました。

私の一番良い読書場所は寝る前の布団の中。本当なら、眠りを誘うはずの読書が一冊読み終わるまで読みつづけ、気が付くと窓から明かりが差し込んでいた・・・という経験をたくさんしました。今は自分の専門分野に関連する書物を読むことが多いですが、それでも推理小説は大好きです。小さいころの好みっていつまでも続くものなんですね・・・ 皆さんはいかがですか？



## 元気の出る本

3年次生 中村理恵

最近感銘を受けた本があります。『さっちゃんとおまほうのて』という本です。さっちゃんは先天性四肢障害のため右手の指がありません。さっちゃんはいつもままとの中で赤ちゃん役です。ある日お母さん役をやりたいと言ったのですが、友達に「さっちゃんはおかあさんにはなれないよ！ だって、てのないおかあさんなんてへんだもの。」と言われ、けんかをしてしまいます。さっちゃんはなぜ自分には指が無いのか、自分はちゃんとお母さんになれるのかと不安になり、「さっちゃん、ゆびがなくてもおかあさんになれるかな。」とお父さんに尋ねます。お父さんは「なあんだ、さちこはそんなことしんぱいしていたのか。なれるとも、さちこはすてきなおかあさんになれるぞ。だれにもまけないおかあさんになれるぞ。」と言います。

この本を読んで、指がないことは、私が眼鏡をかけていることと同じようにその人の個性なのだと思います。障害は必ずしもその人が生きる上で、障害になるとは限らないのではないかと思います。私達はみんなそれぞれ個性を持って生きています。その個性がプラスに働く時もあれば、マイナスに働くこともあるのです。

元気がないとき、私はこの本を読んで、さっちゃんから元気をもらいます。みなさんも興味があれば、一度読んでみてください。

『さっちゃんのおまほうのて』 田端精一ほか 偕成社 1985 (2002年6月現在126刷)



## 本と私

2年次生 南方千穂

私は昔から本が好きで、幼少の頃は家にたくさんあった絵本が大好きでした。その頃は字を読むことより絵が大好きで、「この絵は嫌い」とか「この絵の目が嫌い」というように結構こだわり派でした。最近また絵本が読みたいと思い、押入れの中を捜したのですが見つからず、思わず3冊ほど購入してしまいました。やはり絵本はいつ読んでも(見ても)いいものです。ちなみに私のお気に入りには『ぐるんぱのようちえん』です。絵本以外にも新聞の下の方に紹介されている本や、TVで紹介されている本などを読むのが大好きで、以前は結構自分で購入して読んでいました。

図書館は、小学校・中学校・高校と全く寄り付きませんでした。短大に入学してから図書館に通うようになりました。これまでに短大で借りた本は数知れず、時には最高貸し出し数の10冊借りて帰ることもあります。

一度読み出すと止まらず、読み始めた本はその日のうちに読んでしまわずにはいられません。本は私を感情豊かにし、時に泣かせ、感動させ、悲しませ、ドキドキさせます。そんな本をこれからもたくさん読んでいきたいと思います。

## 蒸気機関車に乗って図書館めぐり

1年次生 前田 哲

昔まだ小さかった頃、私は本というものが大嫌いでした。文字を見るのが嫌で、少しでも文字がある絵本を見せるとすぐにそっぽを向いたので、親は困っていたらしいです。それが今では、全てが文字で、難しいことを扱った本を躊躇することなく読んでいますから、不思議なものです。

本に興味を持ち始めたきっかけは、はっきりとは分かりませんが、多分、今でも記憶に残っている一つの夢だったと思います。小学5年生の頃に見た夢です。主人公の私は蒸気機関車に乗っています。外の景色は宇宙で、乗車している人はごくわずかです。停車する駅には必ず大きな図書館があり、なぜかひかれるように私はその建物に入り、そこにあるひとつの本を開きます。するとその世界に入ってしまう、楽しいこと辛いことなどその本に書いてあることを経験してしまうのです。話が終わると、再び蒸気機関車の中にいる自分がいて、次の停車駅まで待っている自分がいました。それが楽しくて楽しくて、夢から覚めた後には、近くにある本がかなり気になるようになっていました。

そんな出来事のおかげか、本を拒絶することが徐々になくなり、少しずつ読むことになりました。まずは、興味を持ちやすい小説から始めました。今では教科書でも楽しく読むことができます。例えば解剖生理学の本を見るときなど、文章を読みながら頭でその仕組みを思い描いているうちに、その映像が面白くなり、つい時間の経つのを忘れてしまいます。本の楽しみに気づかせてくれたあの夢には本当に感謝しています。

本が好きになって知ったことは、興味を持ったものほど長く没頭できるものはないということです。勉強に関しても、まずは興味を持つように自分を仕向けないといけません。本の唯一の欠点は、没頭すると時間を忘れ予定が狂うということでしょうか。時間は有限ですから、この癖はなおしたほうがいいかもしれません。これからも出来る限り本とのつながりを持ち続けたいと思っています。



### 新規購読雑誌

Canadian Nurse  
Nurse Educator  
Research and Theory for Nursing Practice  
Urological Nursing  
眼科ケア  
家族看護  
健康心理学研究  
子どもと発育発達  
呼吸器ケア  
透析ケア

### 購読中止雑誌

Nature  
New England Journal of Medicine  
Science

### 平成14年度図書館利用統計

年間開館日数	236日
入館者数	30,265人
	(1日平均 128人)
貸出人数	3,621人
図書貸出冊数	10,927冊
視聴覚資料貸出巻数	454巻
相互利用依頼件数	159件
学外利用者数	975人

